



横浜陶芸友の会だより

第 155 号
平成 25 年
7 月 1 日 発行

《 総会報告 》

5月11日土曜日、朝から雨が降り、出足が心配されましたが、いつもの賑やかな仲間が23名も集まり、総会を無事に開催することができました。

各部会の報告と今年度の報告がなされ、会長・副会長・部長が新しく任命されました。長い間 会に尽力してくださいました前会長・副会長・総務部長・事業部長・会計の方々、ご苦労様でした。

そして、昨年度までの友の会作品展会場だった教文ホールの建替えで、次回の作品展も様変わりします。(ただいま検討中)いろいろなと心機一転です。

メンバー入れ替えの部会もありますので、スムーズに運営がされますように、会員さん・各役員さんの応援をお願いいたします。各部会のメンバーの詳細は名簿をご参照ください。

広報部

『 会長に就任して 』

高橋光男

会員の皆様お変わりありませんか。このたび会長を引き受けました高橋です。よろしくお願いいたします。



友の会に入会しまして丸9年たちます。入会早々から専修部で、多くの方々から様々なことを教わり、またたくさんの方から楽しい思い出があります。これからも明るく楽しい会であることを願っております。作品展、焼成教室や研修会、窯場見学会や会報・ホームページ、役員会等いろいろな行事の中で作陶の知識や技術を消化吸収し、同じ趣味の仲間と楽しく語り合えるのは最高の幸せだと思っています。会則に記載されています「本会は作陶活動を通じて会員の親睦と併せて、生涯活動の一環として、陶芸の鑑賞や研究についての便宜

『 副会長「あいさつ」 』

鈴木貴久

をはかることを目的とする。」これらをコーディネートし、会員がスムーズに活動できるようにすることが、それぞれ役員に与えられた責務だと思いますが、会員皆様の協力がなければ成り立ちません。会員の皆様、仲間のふれあいを通して、お互い陶芸の楽しみを深めていく中で、横浜陶芸友の会の更なる発展のために、何卒ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

長い間作品展のお手伝いをさせていただいておりますが、この度副会長を兼任することになりました俗名「ドンさん」こと鈴木貴久と申します。友の会の目的は指導員の養成と聞いておりましたが、入会前は組織名が堅苦しく思え、馴染めない様な気がしておりましたが、実際には一年を通して旅行・作品展・飲み会と楽しい行事がありまして、飽きずに20年も居続けてしまいました。今般、私は会の運営に参加する事となりましたが不慣れな為、行き届かないところも多々あるうかと思っております。どうぞ皆様のお力添えを直しくお願い申し上げます。



『副会長引き受けました』 大内広子

若い時、自分の作った料理を、自分の創った器に盛りたくて始めた陶芸。料理もお花も編み物も飽きてしまった趣味なのに、良い友人に恵まれて、陶芸が1番長くなりました。



不揃いな小鉢たち（世界でたった1組の）水の漏る壺（ドライフラワー用にと姪っ子が大喜び！）半釉掛けの使えない魅力ある湯のみ、上絵下絵がごちゃ混ぜの（紙粘土？と言われた）可愛い小物飾り、等々不恰好でも自分の作品達、土遊びをしていると何故か童心に返って楽しい！そうこれからも友の会は楽しく、仲良くをモットーに歩んで行きたいものです。

『事業部長です。お世話になります』

今まで、全て部長に頼っていた私が「部長！」慣れないことばかりで、我が強く、せっかちな私は皆さんにお世話になることばかりだと思えます。どうぞ、よろしくお願い致します

清水あや子



『再度足枷を・・・』

椎橋 勇

昨年、父親が他界し介護の足枷がとれたばかりでしたが、今年度、作品展の会場当番の日、昼食をともにした前任会計部長の石井さんの会話にうまくのせられ、尻にかけられました。再度会計部長という名の足枷を掛けられました。自分自身、まだ不安ですが一生懸命勤めたいと思います。



会員の方々とは馴染みが薄いとおもいますので少し自己アピールさせていただきます。私は3年前から川崎市役所前の人形店で約2ヶ月間1階の販売スペースをギャラリーとして使用する仕事を手伝っています。作品の搬出入、ポストカードやチラシでの告知、ディスプレイなど裏方として展示会をサポートしています。自分自身、陶芸、染織、ガラス工芸、レーザークラフト、版画と趣味が多彩で個展、グループ展の経験、そのノウハウを生かした助言を心がけています。



『総務部長をお引き受けして』

池見千枝子

大内さんの後任を引き継ぐことになりました。力不足ですが宜しく願っています。平成十六年入会以来、大先輩の方々や仲間から、作陶に関する色々なことを一つ一つ教えていただき、各行事からは多くの情報を得ることで、少しずつですが自分のペースで作陶を楽しんでいます。

毎年の作品展で皆様の作品を拝見する度に各々の高い創作技術とあふれる獨創性、そして作陶に向ける情熱にいつも感動しています。何事にも無器用な私はなかなか成長できず、貴重な情報や体験をもっと大切にしたいと思っています。

今、陶芸を通して素敵な方々と出会い、学べる幸せが人生を楽しく豊かにしていることに感謝しています。これからも歴史ある友の会の発展を願い、皆様が楽しく和やかに交流できるよう微力ですがお役を務めたいと思っております。どうぞよろしく願います。



事業部からのお知らせ

窯場見学会・・・『洪草、小糸』焼です。

美術館見学・・・未定

作品展：・・・第一候補 かなつくホール7月中旬

に決定の予定 **10月号に詳細掲載**

第二候補 かながわ県民センター

(横浜駅西口徒歩7分)

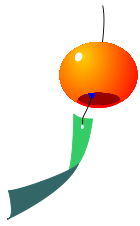
平成25年12月24日～27日予約済

(かなつくホールがもし取れなくてもセンターでは開催できますので会員の皆様にはめげずに作品展に向けて、頑張って作陶してください。)

★「特設コーナー」の課題が決まりました。

今年度は、料理の向こう付けに使われる「**割り山椒**」です。

(ちよっと作陶の合間に、挑戦してみてください。「特設コーナー」だけの出展でも構いませんよ。色々な「**割り山椒**」が出ることを期待しています。)



窯場見学会

今年の見学会は『洪草、小糸』焼です。

『洪草焼』は、江戸末期に半官半民の陶磁器製作所が、「洪草」の地に開窯されたのが始まりとのこと。

江戸幕府崩壊後一時衰退し、明治に後藤象二郎、勝海舟、山岡鉄舟などの関わりを得て芳国舎として再興され、現在に続くと言う。

一方、『小糸焼』は寛永年間、金森重頼により京の陶工を招き「小糸坂」で開窯したのが始まり。

この二つの窯元と他の二、三の窯元を訪ねるほか、高山には、木工・和紙・仏彫・漆器などの工芸が盛んで、それらも見学します。

日程 11月9～10日(土・日)

行程 ・9日新横浜発、名古屋で乗換、高山へ、午後窯場見学。

・10日窯場、及び匠の店の散策

参加形態 横浜から参加、名古屋から参加、高山から参加、等を検討しています。

★10月1日発行の会報で、詳報し、参加者を募集します。

担当 太田公治

ところで、洪草焼ってどんな器？

原料に地元の洪草陶石を用いる。そして瀬戸や九谷といった磁器産地から陶工、絵師を招聘し、瀬戸や九谷の特徴を織り交ぜながら、飛騨赤絵、飛騨九谷と呼ばれる独自の磁器を生み出した。・・・そうです。



小糸焼の伝統的な釉薬である伊羅保とは？

■朝鮮李朝時代(江戸初期頃)の茶碗の釉薬の名前です。名前の由来は、砂混じりの肌がざらつき、イライラとしている事による、あるいは焼かれた地名からきたといわれていますが、定かではありません。

■黄土を混入したマット(つやのない)釉薬で、

その侘びた風情が茶人に喜ばれている。・・・ようです。



(広報部調)

専修部からのお知らせ

秋期焼成会

横浜技能文化会館の電気窯を借りての、秋期焼成会は下記の日程で行います。家には窯がない人・窯はあるが大きな作品が焼けないという人は、この焼成会に参加してみませんか。

家で作った作品を作品受付日に持参してください（素焼完了作品も受付可）。

素焼は専修部で行い、釉掛けは専修部伝統の釉薬を各自で釉掛けします。

本焼は専修部が行い、作品引渡日に各自持ち帰りしていただきます。

専修部でこの数年力を入れて取り組んでいる白化粧。線に勢いのある刷毛化粧・暖か味のある、どんな料理にも合う粉引き化粧の器は、飽きが来ないし、いいですねー。

白化粧は生掛けしますので、特に粉引化粧をする場合は乾燥に注意をして、作品受付日に作品を持ち込んでください。当日に化粧掛けをします。電気窯ですので還元焼成は出来ませんが、酸化焼成で発色の良い天然灰使用の専修部釉薬です。特に織部釉・黄瀬戸釉・白萩釉・土灰釉・灰天目釉は良いと思います。他に 瑠璃釉・白マット釉・透明釉・青磁氷裂釉 がありますので、好みの釉薬で焼成できます。

会 場 横浜市技能文化会館 602 号室 (JR 関内駅南口下車 徒歩 3 分)

作品受付 9 月 1 日 (日) 9 時集合

施 釉 9 月 22 日 (日) 9 時集合

作品引渡 9 月 29 日 (日) 9 時集合

★作陶作品懇談会を引き続いて行います。(11 時 30 分迄)

焼成料

- 素焼+本焼・・・ 100 g = 180 円
素焼完了作品・・・ 100 g = 120 円
白化粧掛け作品・・・ 100 g = 150 円

『長過ぎた年月をふり返って』

出淵江子

思えば本当に長い年月でした。私は今、昭和五十八年六月発行の横浜陶芸友の会だより第三十五号から、平成二十五年四月発行の第百五十四号までの百二十部を目

今年度は会長始め本部のメンバーが広報の部長を残して入れ替わりしました。長い間会のために尽力いただいた出淵さんに代表して離任のご挨拶を頂きました。本当にお疲れ様でした。

の前にして、約三十年の友の会の歴史を眺めております。

昭和五十八年、これから先の人生に何かをやりたいと思っていたところ、陶芸センターのことを知ってその教室に入れて頂いてからの三十年間なのです。毎週ドキ、しながら通った陶芸センター、新しいことを学ぶ喜び、厳しいご指導で久しぶりに緊張したことなどの一年間でした。一年経って勧められるままに友の会のお手伝いをする事になり総務部に入れていた

きました。右も左もわからないまま、先輩達の後について行くだけで、今思えばいつの間にか三十年、いいえ！ あっという間の三十年間でした。その頃の総務部の仕事といえば、年四回の広報の発送や名簿作りで会員数も三百名と多く、皆で集まって作業しても結構な仕事量でしたがそれすら楽しいお仕事でした。そのお陰で総務の方たちが行っていた武蔵小杉のグループに入れて頂き、のんびりと楽しい作陶生活が出来ました。しかし、年月が経つにつれ部長の植村さんと交代することになり、年かさが上の私が

(6 ページに続く)

陶陶さん

第 77 号

あかほし

今年は暑い夏になりそう



なんとなく押し上げられ、気が付くと部長……はては副会長という職が回ってきてしまい、そんなつもりではないのに……と、ずっと思いつつ皆さんの甘言に載せられてやめるチャンス逃してしまつたのです。

ところが平成二十年八月、思つてもみなかつたとしてもない事が起きてしまいました。

友の会は、大切な嶋田さんという会長を失つてしまつたのです。悲しみの中、何とか皆で力を合わせて行かなければならないことになりました。私は自分になにが出来るのだろうと悩みながら何とか頑張れたのは、皆様の優しい言葉と力強い協力でした。

二年たつて松崎さんに会長を代わつて本当にほつとし、そして又今回やつとその重責から解き放たれて、それまで多くの方々に頂いた温かいご支援を心より感謝申し上げますと思います。長い間本当に有難うございました。

今、会員数は昔より少なくなりましたが、

それは致し方ない事実で、今年度は役員さんたちもずつと若返り、新しい考え、新しい知恵を持った方たちに替わつて頂けたのは本当に心強いことです。陶芸を愛し、人を愛する気持ちがある限り、友の会は発展してゆくものと確信しております。

三十年も関わつたとは言え、私自身は少しも上達せず、これといった作品も残せず恥ずかしい限りですが、人生の終わりに近づいてよい人生だつたと思える時があつたとしたら、この陶芸とのかかわりが大きな意味をもつことだと思つております。

振り返つてみて大変な時もありましたが、楽しかったことが多く、それは殆どが沢山の皆様と出会えたお陰で、一緒に学んだこと、遊んだこと、旅したことなどが懐かしく浮かんできます。私ももう少しは皆様と一緒に体の許す限り参加したいと思つておりますので、どうぞよろしくお付き合いお願いもうしあげます。

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 155 号

(平成 25 年 7 月 1 日発行)

発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良謙

編集後記

趣味の作陶は何のしがらみも無い、ぼつかりと空いた時間に創意が浮かび、作陶に没頭できるのが楽しいのだけれど、そんな日はめつたに無いから、いつも年末になつてからドタバタになります。今年の課題は「向う付け、割り山椒」に決まりました。以前窯場見学会で訪れた備前の山本窯で素敵な「割り山椒」を見たのを思い出しましたが、もつと良く見て置けば良かった……いつも悔やまれることばかりです。

吉良 謙



最後になりましたが、この横浜陶芸友の会が、これからも末永く、私たちの心の寄りどころとして発展して行つて頂きたいと思ひます。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。本当に色々有難うございました。